

図書館だより

85

「目で見ると西東京市子ども読書活動推進計画」パネル展を開催しました

「第4期西東京市子ども読書活動推進計画」の策定を記念して、令和4年1月15日(土)から23日(日)まで保谷駅前公民館で「目で見ると西東京市子ども読書活動推進計画」パネル展を実施しました。

市内で子どもの読書に関する活動を行っている団体が作成したパネルや市立保育園、児童館・児童センター、教育指導課・学校、図書館の活動などを紹介したパネルが並びました。

各団体の趣向を凝らしたパネルを多くの方に観ていただくため、市内各図書館で、2月3日(木)から4月14日(木)まで巡回展示を行っています。なお3月16日(水)から芝久保図書館で、4月1日(金)からは中央図書館で開催します。



子どもの読書に関する活動を行っている市民団体のパネル



安房直子倶楽部



くまねずら



ぐるーぶ絵本



子どもの読書勉強会



コロリンたまご



はとさん文庫



もぐらの会



みみいちゃんの紙芝居

★声の広報をお届けしています。

お知り合いの方でご希望の方がいらっしゃいましたら、谷戸図書館(Tel.042-421-4545)へお問合せを。

行政の取組を紹介したパネル



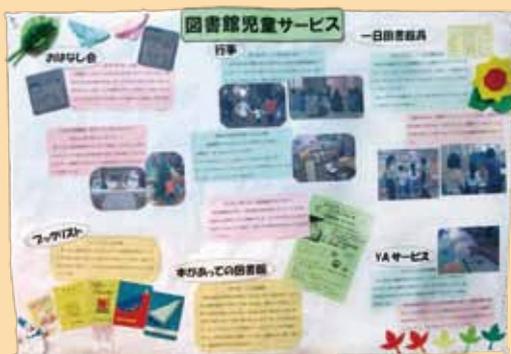
保育園



児童館・児童センター



学校



図書館



おすすめ絵本リスト「えほんだいすき」のコーナーをつくりました!



保谷駅前図書館
「えほんだいすき」コーナー

西東京市図書館では乳児期を卒業したお子さんが、さらに絵本の世界を楽しんでいただけるように、3歳から5歳児向けにおすすめ絵本を紹介したリスト「えほんだいすき」を発行し、配布しています。

今回、各図書館にこのリストで紹介している本を展示するコーナーをつくりました。「おおきなかぶ」や「ぐりとぐら」など子どもたちが大好きな絵本をまとめています。読み聞かせのための絵本選びにもぜひご活用ください。

見て・さわって!図書館ワークショップ

「マメもいろいろ～豆図鑑をつくるう～」

柳沢公民館 工作室 対象 小学生

令和3年11月6日(土)



乾物の状態の豆を、
図鑑に貼り付けて
いきます。

豆について、
いろいろしれて、よかった!!
豆について、
おどろいた!!

多摩六都科学館の皆さんと一緒に、身近な食べ物である豆を使った図鑑作りを行いました。豆の「生物」としての面や「食材」としての面、それぞれの特徴を楽しみながら学びました。

ほんとうのまめをはれて、
うれしかったです。

図書館にある
豆の本も会場に展示♪



豆クイズにも挑戦!

つきそいでしたが、
大人が夢中になって、
楽しかったです。

「プレゼントブック～だれかに本を贈るなら～」

谷戸図書館 読書会室 対象 中学生～18歳

令和3年12月11日(土)



いただいた
感想

本からわたす人を連想
するのが楽しかった。

西東京市立中学校学校司書の渡邊有子さんを講師にお招きしました。

会場に用意した本の中から、参加者それぞれが贈りたい「だれか」を想定して本を選び、選んだ本にリボンや手書きのメッセージカードを付けました。最後に、だれにどんな本を選んだかを紹介し合い、本を選ぶ楽しさを分かちあうアットホームな時間でした。

後日、選んだ本はカードと合わせて図書館で巡回展示を行いました。

いろんな人の作品を見て、それぞれの個性が感じられて楽しかったです。

本を通じて新たな出会いがあったり、世界が広がったりして、とてもおもしろかったです!



にんにん西東京



西東京市図書館キャラクター
西都右京くん

第33回 「今も昔も、事件です！」

西東京市に残されている近世の文書は、市史や目録などに情報が掲載されています。今回は、江戸時代の名主、下田家文書を解読し、まとめた図書を寄贈いただきましたので、その中から、当時の村人たちに起きた事件をご紹介します。

「乍恐以書付御届奉申上候」他6通

文化5年(1808)

田無村の彦六は、村にやってきた火付盗賊改あらため(現在の消防、警察の役割)の役人に捕まり牢屋に入れられてしまいました。その理由もわからず、年老いた両親は重病となり寝込んでしまいます。「生きているうちに彦六に会いたい」との必死な願いを聞いた親戚や近所の人々、さらに、西光寺の住職も手紙を書いて役所へお願いに行きました。その後、役所から父親の与五左衛門と組頭の藤右衛門へ出頭命令が届きます。重病の父に代わりもう一人の息子、八右衛門と組頭が出頭しました。

役人は組頭にだけ「お前は彦六から恨まれるようなことはあるか、ないか」と問い、組頭は「ありません」と答えました。役人も「悪事を犯したと思えない、近々、処分が決定するが、それまで彦六は村役人(名主等)に預けるので村へ帰りなさい」とのお話があり、

他のお尋ねは何もありませんでした。

役人の様子から、彦六と両親は再会できたのではと想像しますが、親子や村人同士の深いつながりがそうさせたのかもしれない。

「御吟味二付奉申上候」他9通

明和8年(1771)〜安永3年(1774)

田無村は、幕領と旗本三人の知行所(四給)で、それぞれに名主がいました。元禄13年(1700)には全て幕領になりましたが、村内は上組かみぐみと下組しもぐみに分かれ、名主も二人いました。上組内の名主に対する不満の高まりから、名主が退役したことをきっかけに紛争が起きました。「二組の村にそれぞれ名主がいては、百姓一人一人が負担する村の費用が多くて困る、村が一体化すれば百姓は助かる」と考えた双方の村人は、代官所を通じて奉行所において、村の一体化は認められました。しかし、名主役が決まらず代表が代官所へお伺いをたてます。代官所の判断は、無理に一体化せず、

以前の年貢割付状のとおり三郎兵衛組(上組)と半兵衛組(下組)の二組に分かれることにしなさい、とのことでした。しかし、村人たちは納得せず、百姓惣代と代官所、奉行所とのやり取りがあり、紛争は続きました。

紛争開始から4年目の安永3年(1774)、近村の名主の調停による結論は、「二つの組を一つにして名主は鬪むで決めましょう」でした。つまり、上組下組から一年交代で名主を出すこと、組の中での人選は鬪によって決めること、となりました。また、水帳みずぢょう(検地帳・人別帳)などの役職に関わる重要書類を引き継ぐことなども約束して証文が取り交わされました。これ以後は、村が一体になり名主役は一人となりました。

村人たちの強い思いが代表者を通じて支配者を動かす事実があったことがわかります。

西東京市には、市民の方々を中心とした、「西東京市古文書研究会」、「西東京郷土史研究会」、「田無地方史研究会」などの団体や、西東京市図書館主催「寺子屋式古文書講座」(講師・吉田豊氏)を契機に結成された自主サークルが活動されています。ご寄贈いただいた研究成果は、図書館の地域・行政資料として市民の皆様にご利用いただいています。

参考文献

- 『古文書が語る田無村村人の喜怒哀楽』 滑川邦夫著
- 『下田家文書目録【B2村役人村方出入】関係文書』 滑川邦夫著 『田無市史 第一巻 中世・近世資料編』 『田無市史 第三巻 通史編』 田無市編さん委員会編 他

令和2年度図書館事業評価の概要

図書館事業評価について図書館協議会から評価を受けた結果です。

コメントの抜粋は次のとおりです。(全文は図書館ホームページでご覧いただけます。)

基本方針1『資料の収集と保存の充実』について

児童書については、最新情報に基づくノンフィクションの収集にも気を使い、過去の情報も追える保存の在り方を検討してください。

基本方針2『すべての市民に活用されるために』について

多文化理解のためのサービスとして、日本語学習コーナーを設置し、利用促進のための行事や企画展示を行ったことは評価できます。

参加型の事業展開が難しい現状を踏まえて、今後もICTを積極的に活用する工夫を期待します。

基本方針3『西東京市の文化・歴史を次世代に継承する』について

Web「西東京市デジタルアーカイブ」に「田無・保谷のおはなし」の創作紙芝居が加わり、今後の展開を楽しみにしています。図書館にとってデジタルアーカイブは大切なサービスです。たとえば、市内の歴史的な写真を収集し、アーカイブに組み込むなど新たな領域も検討して頂きたいと思います。

基本方針4『未来を担う子どもの読書活動の支援』について

「絵本のお楽しみ袋」を始めるなど、コロナ禍での創意工夫が見られます。団体貸出用すいせん図書などについてはさらに種類を増やすなどの工夫が行われることを期待します。生活の場・くつろぎの場に来る子どもたちの好奇心や楽しみに沿うセレクトパックの検討を期待します。今後は、今回の取り組みから取り残されてしまう家庭と子ども達に手を差し伸べる事業展開を期待します。

基本方針5『地域、行政と連携した図書館サービスの向上』について

図書館利用に困難がある市民に対して、音訳者や宅配ボランティアの協力は大切です。与えられた状況下で、今後も工夫しながら最善の努力を継続していただけることを希望します。宅配サービスボランティアと職員の役割と連携が相互に無理が生じないように定期的な業務見直しや研修を続けて今後も質の高いサービスの提供に努めてください。また、このサービスは図書館員が市民の生活の場に赴き、その要望を聞くという大切な場であることも押えておいてほしいと思います。

「中央図書館」 耐震補強等改修工事終え、再開

中央図書館は、令和3年4月から耐震補強等改修工事のため休館しておりましたが、この度工事が無事終了いたしました。

皆様には長い間ご不便をおかけしておりましたが、令和4年4月1日(金)から利用を再開いたします。

中央図書館は、建設から45年が経過し、施設の安全性等を確保するため耐震補強工事を行いました。また、エレベーター設備の更新、トイレの洋式化、空調・電気・給排水設備の改修、照明のLED化など、施設利用者の利便性の向上を図りました。

なお、図書館1階フロアでは、カウンター・文庫架・雑誌架を刷新しました。2階は通路壁付けの書架を取り除き、図書館事務室入口右側に展示コーナーを設置しました。地域・行政資料室は木製書架を配置して利用しやすい閲覧コーナーを整備しました。

現在、急ピッチで外部倉庫に保管している資料を本棚に戻し、什器の運び込み等、開館に向け準備を行っています。開館まで、今しばらくお待ちください。

なお、再開に先立ち、3月19日(土)午前10時から、中央図書館外(入口付近)での、予約資料の受渡しをいたします。

詳細は図書館ホームページをご覧ください。ご理解・ご協力のほど、よろしく願いたします。

小さなアーティスト



図書室の本棚

芝久保小学校6年

私は西東京市生まれの高校生である。

物心つく前から母に連れられて図書館の絵本スペースで多くの時間を過ごしていた。臃気だが、絵本スペースで母に読み聞かせてもらったり妹に読んであげたりと、とても楽しかったことを覚えている。お気に入りの絵本は『しろくまちゃんシリーズ』だったそうだ。また、塗り絵やスタンプラリーなどイベントも喜んで参加していた。

小学生になってからも勉強や本を借りに図書館を頻繁に利用していた。図書館特有の、喧騒から離れ時間がゆっくり流れていくような雰囲気は私を落ち着かせてくれて、とても居心地が良く集中して物事に取り組めた。

このように、たくさんの書物と触れてきたためか、中学と高校における国語の現代文の成績はあまり勉強をせずとも良い成績を取

め、尚且つ小説が大好きになった。

現在、様々な場所にある図書館を利用しているが、それらと比べて西東京市図書館は私の好きなコーナーがとても充実している。様々な図書館に寄る度、そのジャンルのある場所に足を運んでいるが谷戸図書館の棚ほど大きいのには未だに出会っていない。

そう。そのジャンルとはYA(ヤングアダルト)コーナーだ。このコーナーのお陰で図書館が大好きになったと言っても過言ではない。

そんな小説好きの私からおすすめの本をひとつ。

上橋菜穂子作 『鹿の王』

タイムリーなテーマでとても面白かったので本を読んでから2月4日に上映された映画を見てほしい。

利用者エッセイ

わたしと 図書館

原 彩乃